

市報**ふじいた**

57. 5. 1

No. 860

編集と発行

大分市 荷揚町 2 番 31 号
大分市秘書広聴室広聴広報課
(☎34-6111)

新しいふじの芽一つ一つに愛情をそぐ
野崎正治さん（68歳）／寒田（植田地区）

「今年は天気が良かったせいか花つきが良く、見事なふじを咲かせてくれるだろう」と5月3日から始まるふじまつりを心待ちにしている野崎さん。

西寒多神社の境内を掃除する傍らふじの手入れを始めた8年。

春の柔らかな日差しをあびながら、新芽一つ一つの成長を見つめるまなざしにも優しい心遣いが感じられた。

「こここのふじは樹齢約150年、22mの枝振りに1m近くの花房がつくし、境内には平戸つづじもある」とPRもしてくれた。

大分に生きる



いのまほ

伊東マンショと豊後(2)

溝部脩

ルイス・フロイスが野津で布教に尽力

虎千代磨(伊東マンショ)一家は、野津で初めてキリスト教にふれた。大友義統は野津に陣を張り、日向の戦に備えた。彼は白杵から宣教師を招いて家臣や民衆に教えを宣べさせた。

「日本史」を著したルイス・フロイスも度々野津を訪れ、義統と終夜話に興じたことがあつた。フロイスは1577年の暮れに京都を去り、翌年の2月には豊後の布教長となっていた。日本語に堪能であり、日本文化に興味を示していたフロイスは、豊後改宗に与える力が大きかった。野津の有力者の一人が、当時の妻と共に受洗するに及んで野津地方一帯はキリスト教化された。彼の洗礼名はリアン、妻の名はマリア、フロイスは彼の名を「リンセイ」と呼んでいる。

松田毅一氏はこれを飯田但馬麟清と推定している。彼は「野津地方の知事のような役割を果たしている」と1579年の年報には記されている。リアンとマリアは教会堂を建て、孤児や寡婦のために自分の家を提供した。

虎千代磨は野津の時代にフロイスを知り、リアン夫妻を知つたに違いない。

伊東マンショ
困窮の中で育つた

しかし、野津での生活も束の間のことであった。1578年12月、大友家は高城・美々津の戦いで島津勢に敗れ、豊後は混乱に陥った。

外敵に加え、豊後内部にも分裂が生じた。国東の雄、田原親宏、親貴が大友本家に離反した。この混乱の中で伊東家の大黒柱



内へと落ちていった。府内に移った虎千代磨について興味深い書簡が残っている。

「日向王は滅亡し、彼の父は殺され、母は逃げ出しました。だから、豊後ではだれも彼らを意に介せぬ程にして豊後王も彼の親族の人々一人、彼のかかる不幸な彼の母には生活すべき術もない。貴人でもなく富人でもないな

当地でカタピラという白麻の貴地では吾人のシャツに相当するもの一枚を身につけていました。ただでしたから、この人物が馬ンショでございます」

感情が高ぶった状態で書かれているこの書簡は、マジンショが府内に居たとき、大分修道院の院長であったペドロ・ラモン神父のものである。

書簡の価値については後述するとして、豊後に於けるマンシヨのことがここで分かる。彼は野津から府内に逃れてきて、そこで困窮の極みにあった。

また、府内は騒動と混乱の中についた。多分町上はそこで再婚し、そして別れたであろう。

マンシヨと兄弟は着のみ着のままでラモン神父から拾いあげられて、大分修道院に収容された。

(次号へつづく)

5月10日から 本庁市民課の 昼休み窓口を再開します

昼休みの業務は2番窓口

市民の皆さんのご要望にお応えして昼休み窓口業務を、5月10日から再開することになりました。

昼休み窓口業務の開始は、勤務時間中に市役所へこれない人のために、業務を行い便宜を図りました。

特別の事情のある人を除いて、なるべく昼休みはご遠慮ください。

昼休み窓口業務に応じる職員は交代で昼夜に執務し、事務処理をします。限られた人数で行いますので、昼休み中に用件が終わらない人もあるかと思いますが、ご理解の上ご協力をお願いします。

業務内容については2番窓口の、

▽戸籍謄本、抄本、及び戸籍の附票(除籍を除く)の交付

▽印鑑登録證明の交付

▽住民票の謄本、

本庁市民課2番窓口

一口メモ
印鑑は
大切に扱いましょう

印鑑には取り扱いをいたしませんのでご了承ください。



百年の計に思う

64

大分市のど真ん中の公共下水道を今ごろ掘らねばならない。それこそおっしゃる通りに百年の大計がないからだ。

- 4 -



本庁市民課2番窓口

業務については、
この以外の業

代理人が申請する場合は、委任状は要りませんが、登録している人の住所、氏名、生年月日をはつきり確かめて、印鑑登録手帳をもって申請してください。

印鑑登録手帳の提示がないときは、申請書に記入し、印鑑登録手帳を添えて申請してください。



市長対話の日は毎週水曜日相談コーナーで

佐藤益美

大友宗麟公と天正少年遣使節物語(2)

防ごう非行

助けよう立ち直り

補導状況 (56年5月~57年3月)

	小学生	中学生	高校生	その他	計
禁止事項違反	693	704	582	0	1,979
盛り場のぶらつき	324	217	110	19	670
交通違反	30	93	190	4	317
怠惰学習	23	27	126	7	183
下校時遊び	19	15	76	1	111
その他	60	51	68	144	323
計	1,149	1,107	1,152	175	3,583

少年たちに家庭ぐるみ、地域ぐるみの温かい手を

新学期が始まって1ヵ月。子供たちも学校生活にそろそろ慣れてきたのではないでしょうか。

ところどころで子供たちが心身ともに健康でたくましく育つてほしい、と思うのはすべての親の願いです。しかし、こうした親の気持ちとは裏腹に年々少年非行が激増しています。

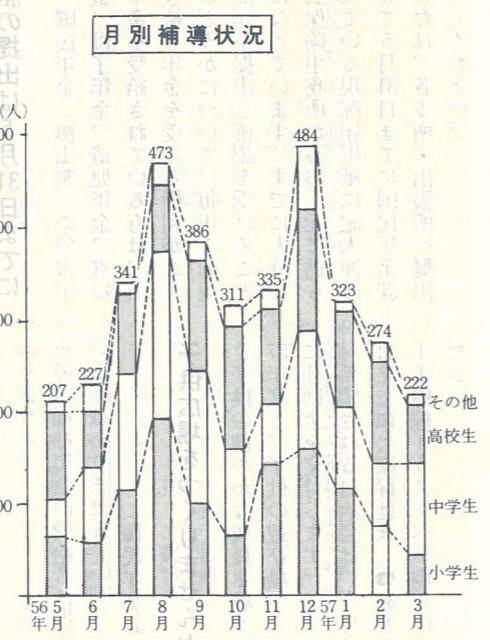
市内の青少年センターでは、青少年が非行へ走るのを防ぐため、関係機関や団体と協力して、街頭補導、相談業務などを実施しています。今回は、56年度の補導状況から非行防止のための家庭と地域の役割について考えてみました。



★家庭の皆さんへ
非行へ走る子供たちは、小さくから親の過保護のため、根気強さや忍耐力のない性格になります。

★地域の皆さんへ
次のような少年を見かけたら、自分の子供を問わず、やさしく「愛の一声」をかけください。

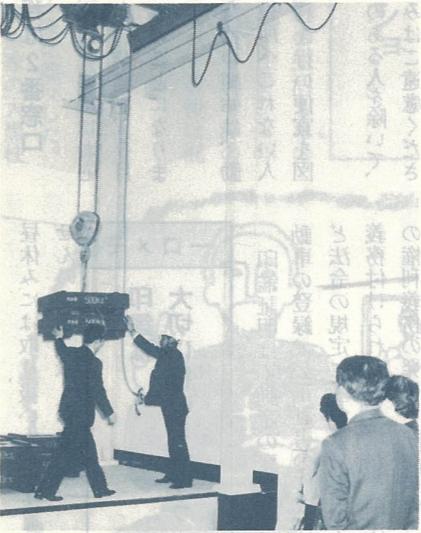
月別補導状況



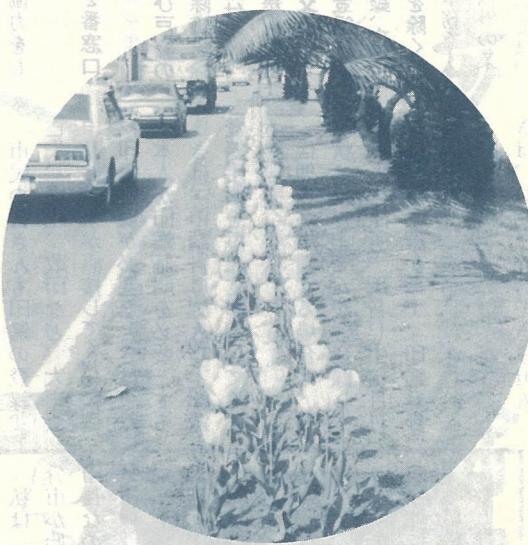
○学校や職場をズル休みして、街をぶらついている少年。
○酒を飲んだり、タバコを吸つたりしている少年。
○パチンコなどをしている少年。
○夜遊びをしている少年。
○シンナー遊びや危ない遊びをしている少年。



432人のお年寄りが
しわのばし学級に入学



▲計量検査所が完成



▶心をなごませる花、花、花……

おおいたクリーン・グリーン作戦の一環として市内各所にフラワーポットなどの設置を進めています。チューリップなどが色とりどりの花を咲かせ、ドライバーや道行く人々から心がなごむと大好評。これからも四季折々の花を植えていきますので、みんなで大切に守りましょう。(写真は県病院前)

▶春の慈善茶会での
益金を市に寄付

新規に建設していた大分市計量検査所が完成し、4月17日開所式がありました。計量は社会生活の根幹となるもの。このため、計量行政のより一層の充実を目的に、事業費2,900万円をかけて、弁天終末処理場内から移転新築したものです。

今年で4回目を迎える慈善茶会(表千家、裏千家、江戸千家、東阿部煎茶、皇風煎茶が参加)が、4月18日行われました。気軽に茶を楽しんでもらおうと毎年開かれているもので、当日は約千人の参加者がいました。また、この益金は福祉事業に役立ててくださいと、市に寄付して頂きました。



